

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第 111 号(2014.03.06 発行)

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【お知らせ】 2014 年度キャリアアップ・プログラムとカルチャー講座ホームページを更新しましたのでご覧ください。

【CP ホームページ】 <http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/index.html>

【CS ホームページ】 <http://www.hue.ac.jp/lecture/culture/index.html>

【目次】

- ・巻頭言……………広島経済大学 経済学部
経営学科 教授 糠谷 英輝
- ・学内見聞録
- ・2014 年度のキャリアアップ・プログラム(CP)とカルチャー講座(CS)の HP を更新
- ・CP 2014 年度 1 学期の講義シラバスのご紹介
 - 水曜日開講 『「CSR:企業の社会的責任」入門』…エントリー科目
 - 水曜日開講 『ビジネス文章表現』…ベーシック科目
- ・読者からのエッセー……………4200m 上空から(第 5 話)
パラグアイのアスンシオン Packer Taka
- ・CP/CS に関する、ご質問やお問い合わせ

■巻頭言

広島経済大学 経済学部

経営学科 教授

糠谷 英輝

3 学期 CP 講師『東南アジアの資本市場』

香港にて

この原稿を香港のホテルで書いている。大学へ移って 2 年で初めての海外出張となった。アジアの持続的経済発展を考える研究で、香港に出張に来たのだ。今後のアジア経済、就中、世界経済を考える上で、中国と人民元、そしてその出入口となる香港を知ることは必須の課題である。

香港にはこれまで 6 回程、調査で訪れているが、相変わらずの猥雑ぶり。とにかく人が多く、その活気に驚かされる。

国籍も多様で、九龍などは無国籍状態になっている。香港は物価が高いとの印象がある。確かにホテルの宿泊代などは高いのだが(需要超過状態なのでそうになってしまう)、モノの価格は中国本土より安く、大量の本土民が香港に押し寄せるため、香港の混雑ぶりに拍車が掛かる。

こうしたことは現地に来ないと実感できない。加えて特に中国に関する日本の報道には偏りがあり、鵜呑みには出来ないというか、それを信じてしまうと間違ふことにすらなるというのを今回は特に実感した。教える立場としてこれは致命的なことで、変化の速い中国やアジアに関しては、定期的に現地足を運ぶことが是非とも必要である。

日本の企業は香港にはすっかり関心をなくしてしまったようで、香港に進出してくる企業もほとんどなくなっている。最初にアジアに進出する場合、その候補先として、香港とシンガポールを考える企業が多いが、香港とシンガポールは同じ都市国家のようであるが違い、香港進出は一部の資本力のある大企業、観光関連、日本食などに限られ、その他の企業は現実的に難しい。

というのも香港の経済的な特徴として、GDPに占める製造業のシェアはなんと1.6%程度に過ぎず、経済構造が大きく偏っている。香港当局のスタンスは「経済は放っておけば発展する」で、経済構造をどうにかしようとするつもりはない。シンガポールは独立国家なので、製造業も一定のシェアを持つように、積極的な誘致を図り、経済構造のバランスに努めている。

また香港は6大財閥が経済を牛耳っており、GDPの8割程度を占めている。それが土地を所有しており、香港の不動産価格は経済的な限度を超える高額なものになっている。中心街の100平米の店舗を借りるのに家賃は年1億円以上。これではまともな企業はコストが高過ぎてビジネスにはならない。それでも借りるのは財閥関連のグループ企業で、そこで利益の移転などが行われているのだろう。

香港は人民元のオフショア市場として活用されているが、これを積極的に利用するのは欧州系企業で、日本企業はあまり利用しない。どうしてか。グローバルに業務を展開する日本企業は米ドル建てでの業務(為替管理等)を進めており、米ドルと日本円の世界でのビジネスとなっている。そこに敢えて人民元を持つてくることはリスクとコストを増やすだけになると考える。これに対して欧州企業はアジアビジネスで日本円を考えておらず、中国ビジネスが拡大するのなら、人民元を使って行けばいいと考える。特に中国内需向けのビジネスを拡大するのなら、人民元でのビジネスとした方がリスクは少なくなる。こうした対応の違いの背景には、日本企業は未だに本社管理が強いが、欧州企業は中国法人に任せて口出しをしないということもある。

欧州は人民元の拡大をまるで脅威には感じない。米ドル、ユーロに次ぐ、第三の通貨、それが日本円であっても人民元であっても、いっこうに構わないのだ。将来的に人民元がユーロを脅かすようになってくれば、対応は全く違ってくるのだろう。

そうした香港も1997年に中国に返還され、一国二制度となって17年が過ぎた。期限の50年まではあと33年あるが、その時間は長いものではない。香港の若者は特に反中意識を高めている。しかし経済的には完全に中国依存で、それを知っている人達は反中には成り得ない。反中派と非反中派(親中ではない)が対立しており、その中間層は居辛くなっている。中国の中南海がどのような決断を下すのか、香港がどうなっていくのか、そんなに時は待たないかもしれない。

因みに香港は反日などではまるでなく、高い日本食を食べてくれる(本土民も香港で食べる)上得意だ。日本のラーメン店の進出が増えているが、どうしてか豚骨ラーメンが圧倒的に多い。中国は豚が好きということなのかもしれないが、その理由は現地駐在の人も分からないようだ。日本の地方公共団体が次々に香港に地元特産物の売り込みに押し寄せている。日本政府として取り組んでくれればいいのにという不満が多いようだ。

かなり短縮して書いてきたが、このほかにも例えば日本の新聞等でも頻繁に取り上げられる中国のシャドー・バンキング

グ(影の銀行)問題では、日本での報道に誤りが多い。紙数の関係上紹介することは出来ないが、結論的には大きな問題ではない。

こうしたことは現地で調査をしないと見えてこない。百聞は一見にしかず、特にアジア経済は多様で、行かないと分からないと言ってもいい。

■学内見聞録

本学の HP に掲載してある記事をご紹介します。生き活きた明るい学生の表情がうかがえます。

URL をクリックして、本学の学生たちの様子をご覧いただければと思います。

お仕事等の気分転換にご覧ください。

- 【2/12】東北支援プロジェクトが講演会「震災と復興～広島の人へ本当に伝えたいこと～」を開催しました
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007499.html>
- 【2/22】カフェ運営プロジェクトが第 2 回全国学生カフェサミットに参加しました
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007493.html>
- 【2/23】カンボジア国際交流プロジェクトがカンボジアに向けて出発しました
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007491.html>
- 【2/18～2/24】
キャリアセンター就職支援プログラム「第 1 回～第 5 回学内合同企業説明会(3 年次生対象)」を開催しました
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/career/news/news/0000007497.html>
- 【2/25～2/28】キャリアセンター就職支援プログラム「公務員試験対策合宿」を開催しました
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/career/news/news/0000007517.html>
- 【2/23～3/1】大学間連携共同教育推進事業 リーダーシップ・チャレンジ in サイパンが開催されました
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007527.html>
- 【2/27】広島ハワイ文化交流プロジェクトがハワイに向けて出発しました
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007509.html>
- 【3/4】本学が実施している「興動館教育プログラム」が経済産業省主催「社会人基礎力を育成する授業 30 選」に選ばれました！
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000007524.html>
- 【3/5】インドネシア国際貢献プロジェクトがインドネシアへ出発しました
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007533.html>
- 【3/19】平成 25 年度の学位記授与式を下記のとおり開催いたします
<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000007418.html>

■CP 2014 年度 1 学期の講義シラバスのご紹介

今回はキャリアアップ・プログラム 1 学期水曜日の 2 科目『「CSR:企業の社会的責任」入門』と『ビジネス文章表現』の 2 科目のシラバスをご紹介します。

【水曜日】 エントリー科目 受講料 12000 円(6 回講義)

科目名		「CSR:企業の社会的責任」入門
担当者		岡田 斎
副題		企業と社会との関係を理解したいあなたのために
対象者		最近、社会的な関心が高くなった「CSR:企業の社会的責任」の主要概念を、具体的事例を交えて解説します。企業経営層の方、経営企画、広報部門、環境部門の方にお勧めです。
到達目標		具体的事例を紹介しながら「CSR:企業の社会的責任」をできるだけ平易に解説し、自社が社会に対して果たさなければならない責任の概念を正しく理解することを目指します。
概要		近年、企業と社会との関係はますます複雑なものになっています。企業が社会においてその存在を認められるためには、社会からのさまざまな要請に対応していかなければなりません。その一方で、企業は社会に対して様々な影響を及ぼしています。企業と社会は強い相互依存の関係にあります。この講義は企業が社会との関係を考えるうえで重要度の高い課題をピックアップして解説します。
授業内容	第1回	CSR:企業の社会的責任とは-今、なぜCSRが求められるのか
	第2回	CSRの歴史的変遷
	第3回	企業倫理とガバナンス-企業不祥事はなぜ起こるのか
	第4回	CSRと企業の情報開示-CSRに関するガイドラインを基に
	第5回	環境経営
	第6回	CSR経営の先進事例-企業のサステナビリティ報告書を基に
授業の形式		座学とディスカッション形式併用
授業の進め方		テーマに関する解説を行った後、具体的事例をもとにディスカッションを行いたいと思います。また、講義内容は受講者の意見を聞いたうえで見直すこともあります。
教材費などの追加負担		教材費の負担はありません。
受講者へのメッセージ		企業不祥事により企業が倒産廃業に追い込まれる事例は、歴史的に多数あります。また、企業価値を著しく低下させるような出来事も多発しています。企業と社会との関係の理解を誤れば、企業存続の危機を招くこともあるのです。企業と社会の関係を正しく理解し、企業が果たすべき社会的責任を認識することは、継続企業(going concern)に欠くことができない重要なことなのです。
講師紹介 (自己紹介)		岡田 斎(経営学科 教授) 1954年大阪生まれ。1979年 大阪大学大学院工学研究科修了。2006年9月神戸大学大学院経営学研究科現代経営学専攻(社会人専門職大学院)修了。2010年3月神戸大学大学院経営学研究科博士課程修了。博士(工学、大阪大学)(経営学、神戸大学)、MBA(経営学修士、神戸大学)、技術士(金属部門、建設部門、総合技術監理部門)。 1979年4月大手製造業に入社。生産技術課長、品質保証部長、調達部長、工場長などを歴任。2007年10月退社後、環境管理会計研究所に参画し、CSR経営、環境経営などの指導を行う。2012年4月より本学経営学科教授。経済産業省委託「サプライチェーン省資源化連携促進事業」診断事業評価委員会委員、公益財団法人広島産業技術センター工業技術支援アドバイザーなど歴任。 CSR経営・環境経営、環境管理会計、企業倫理、BCP(事業継続計画)などの研究を行っている。

【水曜日】 ベーシック科目 受講料 12000 円(6 回講義)

科目名		ビジネス文章表現
担当者		木本一成
副題		相手に伝わるわかりやすい文章を書きたいあなたのために
対象者		ビジネス文章表現に関心のある人
到達目標		ビジネス文章表現の基本、文書作成の考え方を学び、文章表現の応用力を身につけます。
概要		ビジネス文章の基礎は、相手に伝わるわかりやすい文章を書くことです。そのためには、ビジネス文章の特性を理解し、作成の考え方を身につけることです。この講座は、演習を中心に行います。新聞記事やレポートなどを取り上げて、報告・伝達型文章の表現の仕方の特徴を明らかにします。演習では、毎回、目的や課題に即して実際に文章を作成します。特に、課題の解釈、意図の明確化、わかりやすい表現、論理の型などに着目した文章の書き方に取り組んでみたいと思います。
授業内容	第1回	ビジネス文書作成の基本 ーまず書いてみようー
	第2回	起案書・提案書 ー読み手の意識と構成力ー
	第3回	報告文・調査書 ーわかりやすさー
	第4回	お詫び状・手紙 ー敬語と形式ー
	第5回	自分の定型を身につける ーわかりやすさと個性ー
	第6回	Eメール文書の作成 ー簡潔さと礼儀ー
授業の形式		座学
授業の進め方		毎回課題をお出して、その課題をメールで送ってもらいます。それを添削して、次回にお返しします。うまく文書が作成できるか不安でしょうが、個人のお名前は出しませんのでご安心ください。(メールで送られたデータもすべて削除します。)資料は毎回配布しますので、休まないようにしてください。
教材費などの追加負担		教材費の負担はありません。
受講者へのメッセージ		ビジネス文書に関する様々な本が出版されています。これらの本で述べられている理論や事例を参考にしながら、文章を書いてみましょう。実際に書いてみることで、内容が良く理解できたり、さらに、自分の書き方の問題点が見えてきたりします。文章を書く上での課題や問題点が見えてきたらしめたものです。その問題点を意識し改善しようとすることで、自分の文章が驚くほど変わってきます。講師自身も決して優れた表現者ではありませんが、みなさんに文章を書き替えていくことの面白さを伝えたいと思っています。
講師紹介(自己紹介)		木本一成(経済学部 教養教育部) 1958年生まれ。修士(教育学)。広島大学学校教育学部卒業。中学校国語科の教員をしながら、広島大学大学院学校教育研究科言語教育専攻修士課程修了。大学の附属校で学生の教員養成に携わる。中等教育課程における「生活文から論理的文章・創作文への転換」を研究テーマとしている。

第 5 話 パラグアイのアスンシオン

俺オレ電話以来、時々恩師からメールが入るようになり、俺も恩師にオーストラリアの学生インターンシップを受け入れてくれる企業を探してもらったため、シドニーの商工会議所のようなところへ通ってもらっていた。

その頃突然、1 年間くらい急に恩師に連絡が取れなくなった時期がある。後から聞いた話だが、恩師の奥様が介護を必要とする病気になった後、亡くなられたということだった。それ以来、恩師は『酒とバラの日々』ばりの酒浸りの日々だったと恩師の友人から聞いたことがある。俺は、恩師には返事が返って来なくてもメールを送り続けていた。

すると突然、恩師から電話が入った。

恩師：『あっ、俺。今、長野に居るんだ。』（今度はオレと言われても誰か分かった。）

俺：『何で長野に居るのですか？』

恩師：『長野で缶詰になっちゃってさ、外へも出られんのだ…』

俺：『……』連絡を取れないような“番外地”にでも居るのかと、俺は次の言葉が出て来ず黙っていた。

すると、恩師：『実は俺、南米のパラグアイに行こうと思ってさ、シドニーの家、自家用車、家財道具、すべて財産を売って長野に来たんだ。』

俺：『何しに行くのですか？』

恩師：『3 年ほどパラグアイの首都、アスンシオンで日本語の教師だ。俺はスペイン語が出来ねーからさあ、2 ヶ月くらい、長野にある研修所に閉じ込められて、タダでスペイン語の勉強をさせてもらってた。』

俺：『タダですか?!』

恩師：『タダで教えてもらっても、缶詰にされてんだから、中にはノイローゼになる奴もいるよ。昨日も一人、ノイローゼになって脱落した…。』と。

俺は恩師の復活を喜んだが、シドニーの財産すべて売ったという言葉が引っかかっていた。しかし、恩師は以前、日本人学校教員の期限が切れた時、日本に帰るか、オーストラリアの永住権を取るかで家族会議を開き、家族全員が永住権を取ったと聞いたことがあるので、息子の宏介、娘の夏穂はシドニーに居ると思うから、帰る場所はあるはずだと思った。

恩師がパラグアイに居る間に、俺はペルーのリマからナスカ→クスコ→マチュピチュ→チチカカ湖、ボリビアのウユニ湖、パラグアイのアスンシオンで恩師に会って、ブラジルとアルゼンチンの国境にあるイグアスの滝を観て帰ろうとバックパックの計画を立てたことがある。

恩師は『南米で長距離バスの移動は本当に危険だ。夜の移動なんか絶対に危ない。』と言って、『どうしても来ると言うなら、俺はお前さんには会わないから。』と言い出し、俺は南米行きをやむなく断念したことがある。

また恩師がパラグアイに居る時にメールがあり、『俺のシドニーの友人で Roz と Peter ってというのがいてさ、広島に行くって言うから案内してやってくれ。』と。俺は『英会話ができませんが。』と言うと、恩師は、『お前さん、クラスで一番英語ができたんじゃないかって？』と、とぼけていた。

結局、Roz & Peter 夫妻が広島へ来たときは、俺の通訳をするため、わざわざ富山から Roz と恩師の友人が来てくれ、広島での 2 日間は非常に楽しい国際交流ができた。

■ CP/CS に関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へ、ご遠慮なくご連絡ください。

731-0192

広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学

教育・学習支援センター 教育支援課

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp どうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM